

# 幼児の歌唱活動におけるピアノ伴奏の役割と効果(1)

## —幼児教育現場でのピアノ伴奏への認識調査を中心に—

加 藤 俊 裕

(2017年12月27日受理)

# Roles and Effects of Piano Accompaniment in Singing Activities of Young Children(1): Based on an Awareness Questionnaire Survey on Piano Accompaniment in Preschool Education

Toshihiro KATO

要旨：現在も幼児教育の現場、特に歌唱活動時には広くピアノが用いられている。しかし、近年、大学や短大の保育者養成課程ではピアノ初心者が増え、保育者養成課程でのピアノ実技の指導の在り方は転換点にある。今後は初心者の学生でも現場に出たときに「子どもたちのために」という視点をもって、効果的に楽しくピアノを歌唱活動に用いることができるような指導をしていく必要がある。

そのために本稿では、まず歌唱活動の目的やピアノ伴奏の役割について幼稚園教育要領等から見直し、実際に福井市内の幼稚園、保育園、認定こども園で働く職員へ、歌唱活動の際にピアノを用いることへの認識についてアンケート調査を行い、ピアノ伴奏をより効果的に用いていくために気を付けることや身につけた方が良い能力などを考察する。

Key words：幼児教育 歌唱 ピアノ伴奏 保育者養成

## 1. はじめに

筆者が本学で個人レッスンを担当する科目「器楽Ⅰ」「器楽Ⅱ」では、学生の基本的なピアノ技能、読譜力、基礎的理論の習得や弾き歌いのレパートリーの拡大を目的としている。しかし、実際はピアノに初めて触れる者や、昔習っていたが現在は初心者同然という者が多数を占め、既定の課題を全てこなすのが困難な学生や、結局読譜が自分でできないまま授業が終了してしまう学生も多い。

一方で幼児教育の現場では、現在も、行事や日常生活の中でピアノは用いられている。特に歌唱活動は、ピアノが最も活用されている場面と言える。ただ、最近では無伴奏や、CDを用いて行い、ピアノを使わないことも増えているという。確かに歌唱活動時にピアノが絶対に必要とは言えないが、これだけ長く、広くピアノが用いられているということか

らも、ピアノを用いる良さがあると言えるだろう。その効果や役割をきちんと認識することができれば、より豊かで実り多い歌唱活動につなげていけるはずである。

本学での授業、特に弾き歌いの指導の際に、学生たちにまず何を教え、どのように指導していくべきかを考えるためには、まず、歌唱活動時のピアノ伴奏の効果や、求められる役割を整理する必要がある。そこで本稿では、まず歌唱活動の目的や意義、そこにピアノ伴奏がどのように関わっていくべきかを、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」から見直し、次に実際に福井市内107か所の幼稚園、保育園、認定こども園の職員に歌唱活動時のピアノ伴奏についてのアンケート調査をし、実際には歌唱活動時にどれだけピアノが用いられているのか、ピアノを用いる

理由や用いない理由、ピアノ伴奏時に気を付けていることをまとめ、そこから歌唱活動時にピアノに求められている効果、役割をまとめる。

## 2. 歌唱活動とピアノ伴奏について

### (1)「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」から見る歌唱活動

幼児教育の現場で行われる歌唱活動は、単にみんなで一斉に歌うだけでなく、行事や、あいさつ、生活習慣と深く関わっている。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の「ねらい及び内容」に5つの領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）が示されているが、歌唱活動はその5つの領域に深く関わる活動である。例えば、幼児教育での歌唱活動は遊びや動きとは切り離せず、それは、「健康」な心と体を育てる活動になりえるし、みんなと一緒に歌い、お互いの声を聴きあい、自分はどうか歌うかを考えるのは、周りの友達や教師との「人間関係」に関わる活動と言える。また童謡の多くが自然の様々な事象や動物がテーマとなっていることや、歌の歌詞に触れるという観点からは「環境」や「言葉」の領域への関りもある。

このように、歌唱活動は全ての領域に関わる活動であるが、その中でもとりわけ直接関わるのが「表現」の領域である。「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。<sup>1) 2) 3)</sup>」領域であり、注目すべきことは、その「ねらい」や「内容」の項目には「自分なりに」「イメージ」「自由に」「感じる」ということが特に強調されていることである。例えば、その「ねらい」には「(1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。<sup>1) 2) 3)</sup>」「(2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。<sup>1) 2) 3)</sup>」「(3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。<sup>1) 2) 3)</sup>」と書かれている。

ここから歌唱活動を考えると、一斉にきれいに歌うだけではなく、歌詞や音楽から自由にイメージしたり、自発的に表現を工夫したり、感動したことを

友達や教師と伝え合う活動や過程が重要であると言える。子どもの豊かな感性や気づきを育て、自由な自己表現を可能にするためには、教師自身も豊かに表現できる感性を持たないといけないし、また子どもたちの様子に十分に配慮し、柔軟に反応し、援助していく必要がある。また「健康」「人間関係」「環境」「言葉」の領域とも深く関るということを、教師がちゃんと認識して歌唱活動を行うことも大切である。それを可能にするには、教師にはそれなりの技術の習得は不可欠であり、ピアノを弾く際に相当の余裕が必要と言える。

### (2) 歌唱活動時のピアノ伴奏について

このように豊かな歌唱活動を行うには、ピアノは単に楽譜に書いてある音を奏したり、和音を鳴らすだけでは十分ではない。子どもがそれぞれの経験や歌詞の内容からイメージを膨らませ、自由な自己表現ができるようにするためには、ピアノ伴奏でも子どもたちにその曲のリズム感や雰囲気を感じさせてあげられるようにしないといけないし、こどもたちの自由な歌を妨げないような配慮も必要である。子どもの声域にあった調への移調や、子どもの未熟な点（リズム感や音程など）を伴奏で補助してあげることも大切であろう。また言葉としての歌詞が日本語として自然であるように歌えるように留意すべきで、入るタイミングや節によるメロディーの入れ方の違いなどに注意しなければならない。

そう考えると、ピアノという楽器は、タッチによって音量や音質を変えられるし、音域の幅で響きに素朴なものから豊かなものまで差をつけられる。それゆえ音楽や歌詞のもつ世界や、テーマとなっている自然現象や動物、気持ちなどをそのタッチや音量、響きの差異で表現するのに特に適した楽器であり、子どもの声量や気分に応じて弾いてあげられる楽器とも言える。また伴奏形のリズムの変化やアレンジの工夫も、その曲の魅力を感じ取る助けとできる。自信をもって教師の伝えたいことや、曲の世界をピアノ伴奏で表現し、なおかつ子どもの状況や様子に配慮、反応していくのは容易ではないが、しかし、そこにこそピアノを用いる意味がありそうである。

### 3. アンケート調査の実施と結果について

#### (1) 方法

調査対象：福井市内の幼稚園、保育園、認定こども園（107か所）の職員。平成29年11月中旬から12月9日までに返送されてきたアンケート結果を対象とする。

回収率：市内107か所1040通のアンケートを配布、うち77校681通（8通の無効を除く）を回収、回収率は約65%

#### (2) 質問項目と結果

##### A. 幼児の歌唱活動時の伴奏について

ピアノ伴奏を積極的に行っている…530人(78%)  
その他の方法で歌唱活動を行っている  
……151人(22%)

このように、78%の回答者がピアノ伴奏を積極的に行っており、現場での歌唱活動において、ピアノ伴奏は重要な役割を果たしていることが確認できた。とは言え、ピアノを用いていないという回答が20%以上あることも注目すべきだろう。

C. 歌唱時にピアノ伴奏を実際行う際に気を付けていることについて(※設問Aで「教師によるピアノ伴奏を積極的にやっている」を選んだ方はご回答ください。)

※以下のそれぞれの「ピアノ伴奏を実際行う際に気を付けていること」の項目に右の評価基準からご自身の考えに最も近いと思われるところに○を付けてください。	強くそう思う	ややそう思う	あまり思わない	全く思わない
1. 鍵盤や楽譜にかじりつかずに幼児の様子を見ながら演奏できるように気を付けている				
2. なるべくいろいろな曲を歌えるようにたくさんの曲の伴奏を準備している				
3. なるべく止まらずに演奏し、幼児の歌唱の流れを止めないようにしている				
4. 歌唱に際し、難しい箇所や問題のある箇所は、取り出して部分練習をしている				
5. 前奏から歌い出しのタイミングをわかりやすく演奏の仕方や声掛けで示している				
6. 途中に出てくる伴奏中の合の手などの弾き方を工夫し幼児がタイミングよく流れに乗って歌えるように演奏している				
7. なるべくテンポを一定に保つようにしている				
8. 歌唱時の拍の乱れや音程の乱れに対して、ピアノ伴奏において強調示すことによって正しい拍や音程で歌えるように手伝っている				
9. 曲想や歌詞の内容にあった音色や演奏を心掛けている				
10. 幼児の様子や状況に応じてテンポや調性、音量などを柔軟に対応できるように準備している				
11. 幼児の気分や状況に合わせて同じ曲でもいろいろなアレンジの伴奏の中からその時に適した選択ができるように準備している				
12. 楽譜がなくてもコードネームなどで伴奏できるように準備している				

13. その他、歌唱時にピアノ伴奏を実際行う際に気を付けていることがありましたら自由にお書きください。また反対にピアノ伴奏をするときに難しいと感じること、困難なこともありましたら合わせてお書きください。

D. ピアノ伴奏以外による歌唱活動について(※設問Aで「ピアノは用いずその他の方法で歌唱活動を行っている」を選んだ方はご回答ください。)

1. 幼児の歌唱活動時には…  
☐ ピアノ以外(ギターなどの楽器で伴奏を行う) / ☐ CDによる模範伴奏を用いる / ☐ 無伴奏(アカペラ)で行う / ☐ 歌唱活動を行わない

図2 アンケート調査用紙2枚目

仁愛女子短期大学 幼児教育学科  
研究活動「幼児の歌唱活動におけるピアノ伴奏の役割と効果」に関するアンケート  
この調査は、歌唱活動におけるピアノ伴奏の役割を明確にし、幼児教育に携わる学生へのピアノの指導の方法や内容への提言を行う研究活動のためのもので、その他の目的には使用しません。無記名ですので各設問に率直に御回答ください。ご協力をお願いいたします。

A. 幼児の歌唱活動時の伴奏について

☐ 教師によるピアノ伴奏を積極的に行っている / ☐ ピアノは用いずその他の方法で歌唱活動を行っている  
(電子ピアノによる伴奏も含む) ー※設問B、C、Eへ ー※設問D、Eへ

B. ピアノ伴奏を積極的に行っている理由、メリットについて(※設問Aで「教師によるピアノ伴奏を積極的に行っている」を選んだ方はご回答ください。)

※以下のそれぞれの「ピアノ伴奏を行う理由やメリットについて」の項目に右の評価基準からご自身の考えに最も近いと思われるところに○を付けてください。	強くそう思う	ややそう思う	あまり思わない	全く思わない
1. 最も手軽にたくさんの曲の伴奏をしてあげることができる				
2. 教師が伴奏することによって幼児との信頼関係ができる				
3. ピアノの音色が幼児の情操教育に良い効果をもたらしている				
4. 幼児の様子や状況に応じてテンポや調性、音量などを柔軟に対応できる				
5. 歌唱練習の際に部分的に取り出して繰り返し練習ができる				
6. 正確な拍や正確な音程など、歌唱時に問題となることについて伴奏によって示してあげて、その問題点を解決する手伝いができる				
7. 教師の伴奏の弾き方を工夫することで、曲想や歌詞の内容などを示し、歌唱に反映する手伝いができる				
8. 同じ曲でもいろいろなアレンジの伴奏を用いていろいろな雰囲気を楽しめる				
9. 右手でメロディーを弾きながら左手で伴奏をしてあげることができる				

10. その他、歌唱時にピアノ伴奏を用いる理由やメリットなどありましたら自由にお書きください。

図1 アンケート調査用紙1枚目

2. 設問1で選んだ回答について、なぜその方法で歌唱活動を行うか(「歌唱活動をしない」を選んだ方は歌唱活動をしない理由)を自由記述でお書きください。

3. 歌唱活動においてピアノ伴奏を用いない理由、ピアノ伴奏のデメリットについて

※以下のそれぞれの「歌唱活動においてピアノ伴奏を用いない理由、ピアノ伴奏のデメリットについて」の項目に右の評価基準からご自身の考えに最も近いと思われるところに○を付けてください。	強くそう思う	ややそう思う	あまり思わない	全く思わない
1. ピアノを弾くことに一生懸命になってしまい幼児の様子に気が向けられない				
2. ピアノの演奏に自信がない、間違ったり止まったりするのが心配				
3. 楽譜が読めない				
4. 楽譜がないと伴奏をしてあげられない				
5. ピアノよりも得意な楽器がありそちらでの伴奏のほうが歌唱活動時により良い効果をもたらせる				
6. ピアノは平均律での調律なので、純正なハーモニー感を育む妨げとなる				
7. 園で採用している音楽教育メソッドがあり、それに準じてピアノは使用しない				

8. その他、歌唱活動においてピアノ伴奏を用いない理由がありましたら自由にお書きください。また逆に「上記の理由を克服できれば歌唱活動時にピアノ伴奏を用いたいと思う」等のご意見もあればお書きください。

E. 幼児の歌唱活動におけるピアノ伴奏について、以上の設問での回答いただいたことに加え、思うことや感じることがありましたら、自由にお書きください。(※設問Aの回答に関わらず、回答者全員対象)

以上、アンケートへのご協力ありがとうございました。  
仁愛女子短期大学 幼児教育学科 非常勤講師(器楽Ⅰ、器楽Ⅱ担当)  
加藤 俊裕

図3 アンケート調査用紙3枚目

## B. ピアノ伴奏を積極的に行っている理由、メリットについて

(※設問Aで「教師によるピアノ伴奏を積極的に行っている」を選んだ方のみ)、以下の項目に(強くそう思う・ややそう思う・あまり思わない・全く思わない)の4つの評価基準から選択。結果は(図4)を参照。

1. 最も手軽にたくさんの曲の伴奏をしてあげることができる
2. 教師が伴奏をすることによって幼児との信頼関係ができる
3. ピアノの音色が幼児の情操教育に良い効果をもたらしている
4. 幼児の様子や状況に応じてテンポや調性、音量などを変えて柔軟に対応できる
5. 歌唱練習の際に部分的に取り出して繰り返し練習ができる
6. 正確な拍や正確な音程など、歌唱時に問題となることについて伴奏によって示してあげて、その問題点を解決する手伝いができる
7. 教師の伴奏の弾き方を工夫することで、曲想や歌詞の内容などを示し、歌唱に反映する手伝いができる
8. 同じ曲でもいろいろなアレンジの伴奏を用いていろいろな雰囲気を楽しめる
9. 右手でメロディーを弾きながら左手で伴奏をしてあげることができる

ほぼすべての項目で「強くそう思う」と「ややそう思う」が大多数を占めていて、ピアノを用いる理由や効果について、現場との認識にそれほどの相違はないことが確認できた。特に項目4, 5においては「強くそう思う」が突出していて、こどもの状態への対応のしやすさについては、特にピアノ伴奏の長所として認識されている。逆に項目2, 6では比較的「あまり思わない」が多く、そのような観点でそもそもピアノ伴奏を行っていない、もしくはわかってはいるが難しいと感じている人も多い点だと考えられる。

## 10. 自由記述

【ピアノの特性について】音程を正確に示せる、音飛びがなく頭出ししなくてよい、取り出して特定の場所を歌える、子どもの表情を見ながら演奏できる、ピアノの音色(生音)が良い、身近で慣れている、など

【雰囲気づくりについて】リズム感や雰囲気づくりのために良い効果、盛り上がる、歌の時間の切り替えができる、こどもの集中を向けられる、伴奏が始まると自然と子どもが口ずさむ、曲を聴くと何の時間か気づく、子どもたちのピアノへの興味を育める、など

【利便性について】歌が不完全でも周りの子の声を聴きながら歌える、子どもに合わせてアレンジできる、歌の入りがわかりやすい、コードネームで弾ける、など

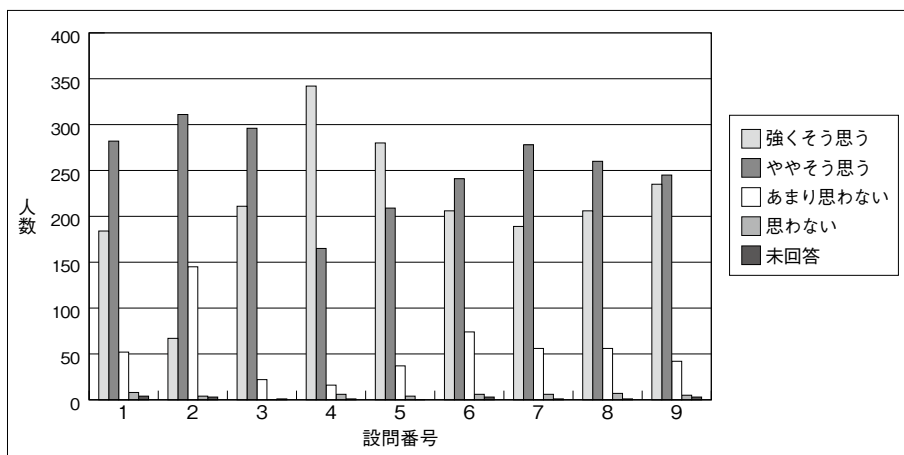


図4 設問Bの回答の結果

【表現について】「和音」「イメージ」「テンポ」などが子ども達の世界から入り込みやすいきっかけとなる、など

【その他】電子ピアノだと音色も変えられて、効果音を弾いたりして子どもに興味をもってもらうのに役立つ、など

### C. 実際行う際に気をつけていること

(※設問Aで「教師によるピアノ伴奏を積極的に行っている」を選んだ方のみ)、以下の項目に(強くそう思う・ややそう思う・あまり思わない・全く思わない)の4つの評価基準から選択。(※設問C全てに未回答者7名) 設問1-12の結果は(図5)を参照。

1. 鍵盤や楽譜にかじりつかずに幼児の様子を見ながら演奏できるように気をつけている
2. なるべくいろいろな曲を歌えるようにたくさんの曲の伴奏を準備している
3. なるべく止まらずに演奏し、幼児の歌唱の流れを止めないようにしている
4. 歌唱に際し、難しい箇所や問題のある箇所は、取り出して部分練習をしている
5. 前奏から歌い出しのタイミングをわかりやすく演奏の仕方や声掛けで示している
6. 途中に出てくる伴奏中の合いの手などの弾き方を工夫し幼児がタイミングよく流れに乗って歌えるように演奏している
7. なるべくテンポを一定に保つようにしている

8. 歌唱時の拍の乱れや音程の乱れに対して、ピアノ伴奏において強調し示すことによって正しい拍や音程で歌えるように手伝っている
9. 曲想や歌詞の内容にあった音色や演奏を心掛けている
10. 幼児の様子や状況に応じてテンポや調性、音量などを変えて柔軟に対応できるように準備している
11. 幼児の気分や状況に合わせて同じ曲でもいろいろなアレンジの伴奏の中からその時に適した選択ができるように準備している
12. 楽譜がなくてもコードネームなどで伴奏できるように準備している

この設問でも、ほぼすべての項目で「強くそう思う」と「ややそう思う」が大多数を占め、現場との認識にそれほど相違がないと言えよう。ただ項目8が比較的「あまり思わない」が多いのは設問Aと連動していて、やはり子どもの未熟な部分に対し、補助的な伴奏をすることは難しいことなのであろう。項目11, 12も比較的「あまり思わない」「全く思わない」と回答した人が多く、アレンジやコードネームは、その長所を認識していても、なかなか実践は難しいのだろう。

### 13. 自由記述

【雰囲気づくりについて】まず楽しんでもらう、明るく笑顔で弾く、テンポや音程にこだわりす

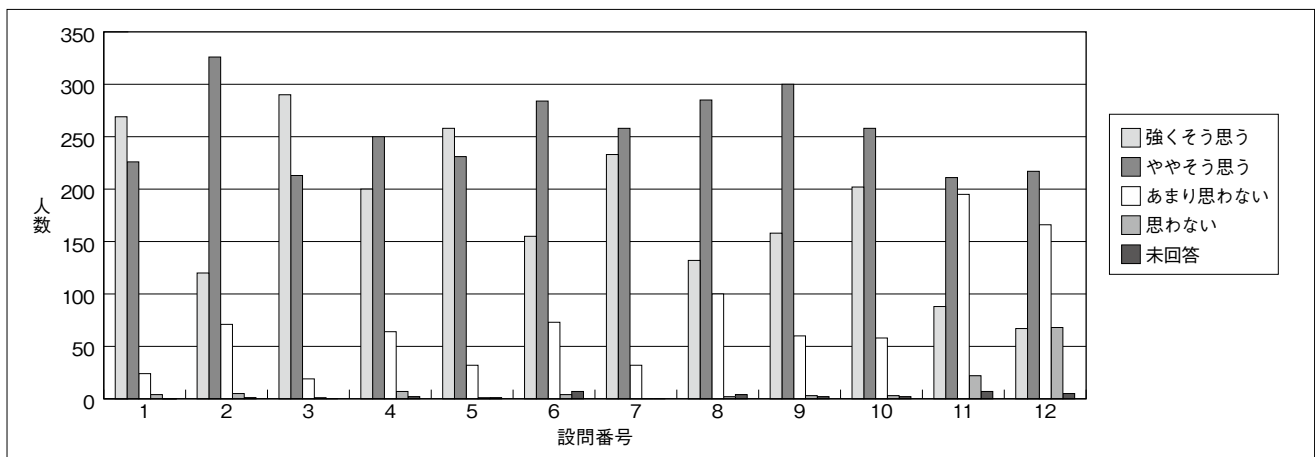


図5 設問Cの回答の結果

ぎない、保育者自ら楽しく歌う、子供たちの目を見る、など

【子どもたちとの関りについて】子ども達の表情がわかるように平易な伴奏を選ぶ、子どもが歌いやすいようにアレンジする、年齢に応じて伴奏を変える、声の低い子のために両手でメロディーを弾く、伴奏は右手がメロディーのものを選ぶ、歌詞を覚えてたての時は先歌いで伝える、歌詞を覚えるまでは右手でメロディーのみ弾く、など

【表現について】子ども達の表現と清潔に正しく歌えることの両方を大切に、アレンジする際の旋律と伴奏の調和、前奏や間奏を楽譜通りに弾く、心を込めて弾く、左手（伴奏部）は強く弾かないようにする、簡易伴奏でも歌の雰囲気伝えるようにする、声の出し方に気をつけて歌う、など

【準備について】子供達と歌う前にしっかり練習する、前もって用意する、コードネームで多くの曲を弾けるようにする、臨機応変に対応できるように暗譜を目標に練習する、自信がもてると気持ちに余裕ができる、など

【難しさへの対策】右手の旋律を優先する、ピアノを弾いているとできないこと（振付、指示など）は他の先生に任せる、ピアノの上手な先生にアドバイスをもらっている、など

【困難なこと】子どものテンポに合わせるかピアノのテンポに合わせるかわからなくなることがある、ピアノの練習に時間がかかる、練習時間が取れない、1人で練習するのと子どもの前で弾くのとで違う、ピアノの鍵盤や楽譜に目が行く、移調などのためコードネームについての知識も必要だが難しい、各部屋にピアノ、オルガンがなく歌いたい時に歌えないことがある、など

#### D. ピアノ伴奏以外による歌唱活動について

（※設問Aで「ピアノは用いずその他の方法で歌唱活動を行っている」を選んだ方のみ）（複数回答可）

#### 1. 歌唱活動時には

ピアノ以外の楽器で伴奏する…… 14人  
CDによる模範伴奏を用いる…… 70人  
無伴奏（アカペラ）で行う…… 135人  
歌唱活動を行わない…… 6人

ピアノ伴奏以外の方法では無伴奏が圧倒的に多く、次にCDによる伴奏が多かった。また複数回答可能な項目なので、無伴奏とCDによる伴奏を併用している人もたくさんいた。

#### 2. 設問1で選んだ理由

（「歌唱活動をしない」を選んだ方は歌唱活動をしない理由）

【環境的要因】担当教室にピアノがない、アカペラだと（CDも）いつでもどこでも歌える、クラスのピアノが弾ける保育士に任せている、など

【苦手意識】ピアノが苦手である、ピアノ伴奏を弾くと一緒に歌えない

【その方法への肯定的な理由】アカペラで手遊びをする、年齢的にピアノ伴奏よりアカペラの方がよい、肉声を聴かせてあげることが大事、歌詞を覚えるためには歌だけの方が良い、自分のやりやすい方法だから、一緒に踊ったりして楽しみながら歌いたい、など

【その他】他のクラスと合同や行事・集会の時はピアノ伴奏に合わせる、など

#### 3. ピアノ伴奏を用いない理由、ピアノ伴奏のデメリット、以下の項目に（強くそう思う・ややそう思う・あまり思わない・全く思わない）の4つの評価基準から選択。

（※設問D-3の全てに未回答者3名）設問1-7までの結果は（図6）を参照。

1. ピアノを弾くことに一生懸命になってしまい幼児の様子に気が向けられない
2. ピアノの演奏に自信がない、間違ったり止まったりするのが心配

3. 楽譜が読めない
4. 楽譜がないと伴奏をしてあげられない
5. ピアノよりも得意な楽器がありそちらでの伴奏のほうが歌唱活動時により良い効果をもたらせる
6. ピアノは平均律での調律なので、純正なハーモニー感を育む妨げとなる
7. 園で採用している音楽教育メソッドがあり、それに準じてピアノは使用しない

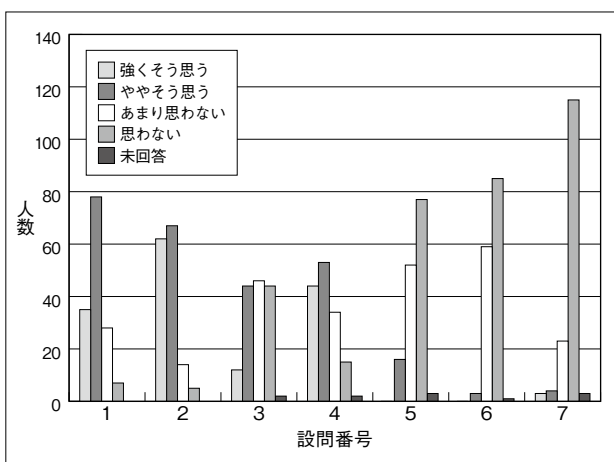


図6 設問D-3の回答の結果

## 8. 自由記述

【ピアノ伴奏肯定的意見】時間と環境に余裕があればピアノを用いたい、ピアノが得意なら歌唱指導に用いたい、3歳以上だったらピアノを用いたい、事前に曲がわかれば練習して自信をもって弾ける、教師が2人いて役割分担できれば用いたい、子ども達にたくさん聞かせてあげることによって音感、音程などが身につく、音を感じ取る楽しさなど実感できる、など

【ピアノ伴奏否定的意見】担任ではないので必要ない、など

普段ピアノを用いていない理由としては、「年齢的にピアノ伴奏が適さない」「ピアノが苦手」「子どもの表情がみれない」「教室にピアノがない」といったものが多かった。設問D-3では平均律のことや、アカペラを推奨する音楽教育メソッドに関する項目6,7についてはほぼ全員が「あまり思わな

い」か「全く思わない」を選んでいて、ピアノの特性的な短所を理由に、あえて避けているというわけではないようだ。また「肉声を聴かせてあげたい」「手遊びや振付を一緒にできる」などといった、ピアノ伴奏をしないことで、積極的に何かをしたいという意見も多い。ピアノ伴奏を用いてできると、用いないときにできることを整理することも、より良い歌唱活動を目指す上で重要であろう。

## E. 以上の設問での回答以外で、自由記述

(※回答者全員対象)

【全般的なこと】ピアノが全てではない、ピアノにこだわらず得意な楽器を用いる、ピアノは季節を感じたり遊びを発展するための一つの道具、全職員が同じレベルのピアノ伴奏ができると良い、園にいるピアノをひける人に任せていいと思う、苦手な人は違うことで補えばよい、保育士の声だけでの指導の方が有効な場合はある、など

【困難なこと】新しい曲を練習する時間がない、学生時代に学んだことと現場で必要なことに差があり学んだことが活かされない、大きな声でキレイに歌うことが難しい、簡単にアレンジしてある楽譜を用いることが多い、など

【難しさへの対策】子供達が楽しく音楽に取り組めるような保育教諭の関わり方・やり方を模索し実践していく、ピアノ・CD・アカペラなどを保育状況に合わせて柔軟に使い分ける、子供の前で弾く経験をたくさんする、ピアノは毎日の練習が必要、簡単な楽譜を選ぶことは子どもにとって良くない、保育者自身が幼少期からピアノに多く触れておくべき、コード進行等学生の時にもっと学んでおけばよかった、など

【子どもについて】最近の子は機械音に囲まれているせいか音を取ることや高い音が苦手な子が多い、子ども達をひきつけたり自然に集まってきたりコミュニケーションの一つにもなる、歌う子と歌わない子がいる中でも楽しめるように保育者が楽しんで弾く、保育者が正しい音で歌えると子ども達も正しく歌える、など



#### 4. まとめと今後の展望

アンケートを回収する際に、ある園の園長先生が「コードだけを乱暴に両手で伴奏するよりも、片手でメロディーだけでも優しい音や曲にあった音色で弾いてくれる方が子供には良い影響がある。たとえ途中で止まったり間違えたりしても子どもはちゃんと歌い続けてくれる。頑張って失敗する姿も子どもにみせてあげて良いと思う。」と、おっしゃっていた。保育者養成課程でのピアノ実技の指導では、確かに基本的な技能の修練や読譜力は必須であり、しかも相当の余裕をもって弾けるようにしてあげなければならない。しかし、ピアノを用いる意味を十分に考えるならば、それだけでは不十分で、タッチや弾き方で教師の思いや曲の表情を伝えることも、ピアノで子どもの歌声に反応することもできる、ということまで伝える必要がある。そのようなことを各々のレベルに応じて教えていくには、やはり現在の個別で学生をレッスンし、きめ細やかに指導する時間をもてる授業形態は必須であり、また期間としても1年間で終わってしまうよりも2年間丁寧に学ぶ時間がある方がよりピアノを学ぶことに意味を持たせる指導ができる。また指導する側も「3回以上止まってはいけない」や「バイエルのここまでやらなければならない」という視点だけではなく、「ピアノをどのように扱えばより曲の雰囲気やリズム感が伝わり、また子どもたちの自由な歌声に反応することができるか」という視点をもって指導をしてい

かなければならない。初心者は最初は片手のみや、本当に平易な曲からでも良い。現場に出たときに楽しくピアノを用いて幼児と関わるためには、まず保育者自身がピアノに楽しく触れ合い、可能性の広さを知る経験が必要である。

今回は、まず現場でのピアノ伴奏に対する意識を調査することによって、現状を把握することができた。今後は実際にいくつかの園で歌唱活動の様子を見学し、教師が何を考えピアノを弾き、それがどのように子どもたちに影響し、どんな様子で活動に取り組んでいるかなどを観察したり、インタビューで今回のアンケートよりも詳しく現場の人たちの意見を汲みとったりして、歌唱指導の際のピアノの役割と、その役割を発揮するための教師の気を付けることをより突き詰めていきたい。それを今後の保育者養成課程でのピアノ実技、特に弾き歌いの授業の在り方への提言につなげていきたい。

#### 引用文献

- 1) 文部科学省 (2016)『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
- 2) 厚生労働省 (2017)『保育所保育指針』フレーベル館
- 3) 内閣府, 文部科学省, 厚生労働省 (2015)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

#### 参考文献

新 保育士養成講座編纂委員会(編)(2015)『新保育士養成講座第9巻保育実習』全国社会福祉協議会出版